

土徳 焼跡地に生かされて (2003)

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー

製作国 日本

色彩 Color

時間 118分

初公開日 2003/08/02

【解説】

広島浄土真宗のお寺に生まれた映像作家の青原さとしが、父の死と相前後して撮影された11年分のビデオ記録をもとに、父との葛藤や家族との関わりを見つめた私的歴史ドキュメンタリー。一方で、広島のお寺で住職として生きた父を通して、お寺と地域社会の関係や、戦争と原爆、広島過去の過去と現在といったテーマを縦横無尽に語っていく。

浄土真宗のお寺・真光寺に生まれた青原さとし監督。戦後、住職として寺を守ってきた父・淳信はお寺の古い因習にこだわり続ける。一方の青原監督は、お寺社会のあり方に抵抗を感じついに家を飛び出す。数年後監督は、父が病に臥したのをきっかけにカメラを回し始め、ふるさと広島と父の歩んできた足跡を探っていく。市井の人々を訪ね歩き、次第に明らかになっていく父が育った原爆以前の広島、そして家族5人を失った父の壮絶な原爆体験、その後の復興。カメラは父・淳信の軌跡を通してお寺、さらには広島の変遷をも映し出していく。

【クレジット】

監督 青原さとし

構成 青原さとし

撮影 青原さとし

伊藤碩男

小沢由己子